世界 LNG 動向　2022 年 2 月

橋本裕 *

はじめに

世界のガス産業は、2022 年 2 月末から進行する軍事行動の、ガス・LNG 市場に対する影響を、見極めようとしている。パイプラインガス供給の物理的な減少や、中断がどのようなものとなるのか。そのようなパイプラインガス供給の物理的な減少や、中断を引き起こす要因や、誰がそれを起こすのか。ガス価格への影響はどうなるのか。恐らく LNG となる可能性が高い、代替のガス供給は、何処から、来ることとなるか。

欧州の小口、立場の脆弱な消費者がどのように反応するのか、この冬の間に、さらにどれだけの省エネルギーを実行できるのか。各国の政府は、消費者を保護するために既に導入した様々な対策に加えて、何ができるのか。世界の LNG 消費者、生産者は、季節的に、また予想以上に、タイトとなっている市場条件に対処するために、どう反応するか。

経済制裁は、当然ながら、経済活動に影響する。業界の様々な企業が、自社の事業活動、もっと重要なこととして自社のガス、エネルギーの顧客に、悪影響をもたらすことを回避するために、何ができるのか、何ができないのかを見極めようとしている。

さらに長期間のマイナス影響を及ぼす可能性を持った状況が、ガスプロジェクトや関連投資活動から撤退する意思表示の形で既に浮上している。そのような決定は、各社のポジションや戦略に応じて慎重に検討されるべきである。

米国から既に救済が途上にある。 Venture Global LNG は 3 月初旬、ルイジアナ州キャメロンの Calcasieu Pass LNG 輸出設備よりの最初の LNG カーゴを出荷した。

米国の LNG Allies はじめとする業界団体、 Energy Policy Research Foundation, Inc. （EPRINC）が、2 月末、自国の政権にあてて、天然ガスが国家セキュリティの重要な部分であり、気象問題のソリューションであることを明示することを求める書簡を発行した。

[アジア太平洋]

西部ガスは、カーボンニュートラル LNG を初めて導入、積載した LNG 船は、2022 年 2 月 2 日、ひびき LNG 基地に入港したことを、同 3 日、発表した。東京ガスから調達した。

商船三井は、2022 年 2 月 17 日、最新鋭 LNG 燃料フェリー2 隻を建造する計画を発表し

---

* 化石エネルギー・国際協力ユニット　ガスグループ

た。商船三井は内海造船株式会社と造船契約を締結した。2025 年に竣工を予定し、商船三井フェリーが運航する大洗～苫小牧航路に就航する予定。

三菱重工グループの三菱造船、商船三井（MOL）は、2022 年 2 月 3 日、「浮体式アンモニア貯蔵気化設備（アンモニア FSRU: Ammonia Floating Storage and Regasification Unit）」コンセプトスタディーを完了したことを発表した。三菱造船、商船三井、関西電力はアンモニア FSRU の将来的な導入検討に関する覚書（MOU）を締結した。

三菱造船は、2022 年 2 月 2 日、NEDO の「CCUS 研究開発・実証関連事業／苫小牧における CCUS 大規模実証試験／CO_2 輸送に関する実証試験」で活用する液化 CO_2 (LCO_2) 輸送の実証試験船の建造契約を、山友汽船との間で締結したことを発表した。下関造船所江浦工場で建造、完成および引き渡しは 2023 年度後半の予定。川崎汽船、日本ガスライン、国立大学お茶の水女子大学は同事業における同協会の再委託先として、本船が輸送する LCO_2 の圧力制御・安定性の研究開発や実証試験方案の作成業務等を受託し、CO_2 を安全かつ低コストで輸送する技術の開発と実証等を行う。

商船三井（MOL）は、2022 年 2 月 8 日、マレーシア Petronas 社と、CCUS （Carbon Capture, Utilization and Storage） 向けの液化 CO2 海上輸送に関し事業開発を共同検討するための覚書を締結したことを発表した。

JERA は、2022 年 2 月 18 日、燃料アンモニアの調達に向けた国際競争入札を行うこととし、提案依頼書を約 30 社に対して送付したことを発表した。

豪 BHP は、2022 年 2 月 7 日、世界最初の LNG 燃料型ニューキャッスルマクスバルク輸送船舶で西豪州・アジア間で鐵鉱石を輸送することとなる MV Mt. Tourmaline の引き渡しを受けた。BHP は LNG 燃料型ニューキャッスルマクスバルク輸送船舶 5 隻を Eastern Pacific Shipping （EPS）から傭船しており、LNG 燃料契約は Shell と締結している。最初の航海として、シンガポールジュロン島に到着した。そこでシンガポール最初の LNG バンカー船舶 FueLNG Bellina を通じてバンカリングを受ける。 FueLNG は Shell Eastern Petroleum ・ Keppel Offshore & Marine 間の合弁事業で、同バンカー船舶を運航している。

タイ PTT は、2022 年 2 月 15 日、同年稼働開始予定の自国 2 件目の LNG 受入基地 LNG Map Ta Phut Terminal 2 （LMPT2） に投資する合弁事業契約を、 Electricity Generating Authority of Thailand (EGAT) と締結したことを発表した。

JERA は、2022 年 3 月 1 日、ベトナム・ハノイに子会社 JERA Energy Vietnam Co., Ltd.（JERA EV）を設立したことを発表した。

アブダビ Abu Dhabi National Oil Company （ADNOC）子会社が、フィリピン最初の LNG 輸入基地向けとして、2022 年 7 月に、 AG&P （Atlantic, Gulf & Pacific International Holdings）向けに浮体貯蔵設備（FSU）を提供する、と両社は述べた。 AG&P は、 ADNOC Logistics & Services （ADNOC L&S）の LNG 輸送船舶 ISH を、バタンガス湾 Ilijan における、当初年間 500 万トン容量の PHLNG 輸入基地向けに FSU 改造するべく、11 年間・さらに 4 年間の延長オプション付き傭船契約を締結した。

中国の国家统计局データによれば、中国の天然ガス消費量は、2021 年 3670.6 億 m^3 と、前年比 12.7%増となった。

中国の国家发展改革委 (NDRC) は、2022 年 2 月 16 日、福建省莆田 LNG 受入基地プロジェクトを承認したことを発表した。 哈纳斯集团 (Hanas Group) が計画している。NDRC は、同日、广东省惠州 LNG 受入基地プロジェクトを承認したことを発表した。广东省能源集团有限公司 (Guangdong Energy) が計画している。

パキスタン向け長期契約の供給者が 2022 年 3 月分の 2 カーゴ引き渡し不履行となった。

豪州 AGL Energy Limited は、2022 年 2 月 21 日、 Brookfield Asset Management を中心とする連合体による、 AGL Energy 株式 100%買収を目論む、一方的な、初期的、非拘束の買収申し込みを拒絶したことを発表した。

ConocoPhillips は、2022 年 2 月 17 日、 Australia Pacific LNG （APLNG）の株式追加 10%を、 Origin Energy から買い取り完了したことを発表した。 ConocoPhillips は今後 47.5%、 Origin Energy 27.5%、中国石化（Sinopec）を持つこととなる

豪州連邦産業省ウェブサイトの情報によると、 Chevron の Gorgon CCS 設備は、2020 年 7 月 - 2021 年 6 月年度、キャパシティの半分で稼働した。

Santos は、2022 年 2 月 28 日、 SK E&S、 K-CCUS Association、 CO2CRC、韓国貿易保険と、二酸化炭素（CO2）貯蔵設備開発支援・協力に関する覚書（MOU）を締結したことを発表した。

ExxonMobil は、2022 年 2 月 21 日、 Esso PNG P'nyang Limited、 Ampolex Limited、パプアニューギニア政府が、 P'nyang プロジェクトガス協定を、 P'nyang LNG プロジェクト開発に向けて締結したことを発表した。ウエスタン州に既存インフラストラクチャーと連結する新規上流設備を建設することで LNG を供給する。 P'nyang ガス田は推定 4.36 tcf のガス埋蔵量を有する。ウエスタン州での P'nyang 開発は、ガルフ州での Papua LNG プロジェクト開発に続いて実施されるように計画される。 P'nyang プロジェクトは独立のプロジェクトとして、地主への便益は、石油・ガス法に従い政府が今後交渉する将来の利益配分協定に基づき提供される。 P'nyang プロジェクトは、 Papua LNG 後に追加建設期間 4 年間を提供することとなる。 P'nyang プロジェクトは生産されるガスの最大 5%を、政府の電化取り組みを支援するべく、ウエスタン州、その他の合意された場所に利用可能とする。P'nyang ガス田は、石油類リテンションライセンス鉱区 PRL3 に位置する。 Esso PNG P'nyang Limited が同鉱区オペレーターで、 Ampolex (Papua New Guinea) Limited と合わせて 49%を所有する。 Santos 38.5%、 JX Nippon 12.5%をそれぞれ持っている。

[北米]

米連邦エネルギー規制委員会（FERC）は、2022 年 2 月 17 日、パイプライン・LNG 輸出プロジェクトに重大な影響を及ぼす 2 件の政策を承認した。1 件目のパイプライン許可政策文書は、ガスプロジェクト許可に関する政策を修正するもので、プロジェクトの承認を裏付

ける「公共上の必要性」が十分にあるか FERC が判断する基準を改訂する。2 件目の暫定温室効果ガス（GHG）排出政策文書は、2022 年 4 月 4 日までの一般意見に基づき修正され得る暫定改正で、プロジェクトの見込み GHG 排出、気象変動影響を評価する枠組を設定する。FERC は、開発者側がプロジェクトの排出を抑制する計画を提案することを促し、CO2 換算年間 100,000 トン相当以上を排出するプロジェクトは、全面的な環境影響評価を義務付けると述べた。

米ガス協会（AGA）は、2022 年 2 月 22 日、同 17 日の連邦エネルギー規制委員会（FERC）決定に関して次の声明を公表した。「FERC の本日の決定は、ユーティリティ企業や発電事業会社含む顧客が、自らの顧客向けに供給する義務を適正な価格、信頼性ある形で果たすため必要な天然ガスを確保する能力を阻害する可能性が高い。このような政策変更は、審査手続きをさらに遅延するもので、システムのレジリエンスに悪影響し、天然ガス供給網を使って再生可能天然ガス、水素等の低炭素燃料の配給も阻害する可能性がある」。

27 人の共和党所属連邦議会上院議員が、2022 年 2 月 17 日、LNG 輸出増加促進を求める書簡を DOE に送った。

Cheniere Energy は、2022 年 2 月 7 日、ルイジアナ州キャメロン郡 Sabine Pass 液化プロジェクト（SPL Project）第 6 系列の実質完成が同 4 日に実現された、と発表した。コミッショニングが完了し、エンジニアリング・調達・建設のパートナー Bechtel Oil, Gas and Chemicals, Inc. は第 6 系列の監督・管理・制御を Cheniere に引き渡した。

Cheniere Energy は、2022 年 2 月 24 日、子会社 Cheniere Corpus Christi Liquefaction Stage III, LLC が、2019 年 EOG Resources, Inc. と締結した統合生産マーケティング型（IPM）ガス供給契約を修正、期間を延長してこの天然ガス供給に伴う LNG 量を 3 倍に増加することを発表した。EOG は、日量 420,000 百万 Btu の天然ガスを、15 年間 CCL Stage III に供給することに合意した。この供給の 3 分の 1 ずつ、同プロジェクトの第 1、4、5 系列が完成するとともに開始することを目標とする。このガス供給に伴う LNG、年間 255 万トンは、 Cheniere が所有・販売し、このガスについて EOG は、 Platts JKM に基づく価格を受け取ることとなる。さらにこれまでに執行された、 EOG が日量 300,000 百万 Btu のガスを CCL Stage III にヘンリーハブ連動の価格で販売するガス供給契約は 15 年間に延長された。その結果、 EOG は、合計日量 720,000 百万 Btu の天然ガス（年間 437 万トン）を、 CCL Stage III 向けに、 Corpus Christi Stage III プロジェクト稼働開始とともに開始する 15 年間の修正後契約で供給することとなる。EOG は日量 140,000 百万 Btu の天然ガスを、修正後長期契約の開始まで、 Corpus Christi Liquefaction, LLC 向けに、2020 年開始の取引で販売し続けることとなる。このガス供給に伴う LNG は、年間 85 万トンで、Cheniere が所有・販売し、 EOG はこのガスに関して JKM に基づく価格を受け取っている。 CCL Stage III プロジェクトは、中規模液化設備 7 系列で開発され、公称生産容量は年間 1000 万トンを超える。

Tellurian は、2022 年 2 月 2 日、ルイジアナ州 Driftwood LNG 設備建設を 4 月に開始

する計画である、と述べた。

Venture Global LNG、JERA は、2022 年 3 月 1 日、ルイジアナ州キャメロン郡 Calcasieu Pass LNG 輸出設備で生産された LNG 最初のカーゴの積み込み、出発を発表した。 JERA Global Markets が傭船した Yiannis に積まれた。 Calcasieu Pass は、29 ヶ月間で FID から LNG 生産となった。

DOE 提出文書によると、 Venture Global 社の Plaquemines LNG 子会社は、2022 年 1 月 21 日、 Repsol Energy North America と天然ガス購入契約を締結、LNG 換算で年間 35 万トン相当を、3 年間購入する。

Energy Transfer は、2022 月 2 月 3 日、 Lake Charles LNG 設備建設期限を、2028 年末まで、3 年間延長することを、FERC に申請した。

米北東部ニューイングラドのハブ Algonquin Citygate スポット天然ガス価格は、2022 年 1 月平均 100 万 Btu 当たり 20.55 米ドルと 2014 年 2 月以降の最高、いく日かは 28 米ドルを超えた。同地方の卸翌日渡し電力価格も上がり、日間平均が 2022 年 1 月は 25 回も、MWh 当たり 100 米ドルを超えた。この冬ここまで 11 月から 1 月の同地方天然ガス需要は、過去 5 年間平均を 13%超えている。天然ガスパイプライン制約で、発電設備向けの天然ガスが制限され、燃料油焚きの火力発電設備数件の再稼働につながった。この冬は利用できる LNG が限定されたことも同地方天然ガス価格の上昇につながっている。

ExxonMobil は、2022 年 3 月 1 日、テキサス州ベイタウンの精製・石化拠点に水素製造・大型 CCS プロジェクト建設を計画している、と述べた。

米カリフォルニア州 Southern California Gas Co. （SoCalGas）は、2022 年 2 月 24 日、有機廃棄物から生産された再生可能天然ガス（RNG）140 億立方フィート（29 万トン）が 2021 年自社パイプライン網を通じて配給され、2020 年の 120 億立方フィートを、20 億立方フィート上回ったことを発表した。 SoCalGas は、2021 年、RNG 接続プロジェクト 5 件を完了した。合計で 9 件の RNG プロジェクトが SoCalGas パイプライン網に接続されている。 SoCalGas の自社操業・配給について 2045 年までに温室効果ガス（GHG）排出ネットゼロを実現する目標の一環として、2030 年までに中核顧客向けに 20% RNG を供給する計画である。

2022 年 1 月末、米アラスカ州知事は、 Alaska LNG プロジェクトに関して、新たな独立の分析が、同じアジア市場に向け競合する他米国プロジェクトよりも安価になると試算することに歓迎を表した。アジアに近く海上輸送費に優位性がある。最近成立した連邦投資・雇用法により、アラスカ州の液化天然ガスプロジェクトに連邦債務保証 250 億米ドルが利用可能であることが再確認された。アラスカ州ガス導管公社（AGDC）がこの Wood Mackenzie による報告書を公表した。これによると、プロジェクト建設費の削減、新たなプロジェクトファイナンス構造、天然ガス購入費削減が見込まれることで、LNG 価格が安価になるとしている。

カナダ TC Energy 子会社 Coastal GasLink は、2022 年 2 月 17 日朝、 Morice River の

Marten Forest Service Road 地点から近くの現場で、約 20 人による襲撃を受けたことを発表した。 Coastal GasLink 作業員に実質負傷はなかった。

カナダ Pembina Pipeline Corporation は、2022 年 2 月 8 日、自社・ファーストネイションズ Haisla Nation の、ブリティッシュコロンビア州キティマットでの Cedar LNG 輸出プロジェクトが、同州環境影響評価事務所に、環境影響評価（EAC）申請を提出し、180 日間の評価期間に入ったことを発表した。 Cedar LNG はまた、 Black & Veatch ・サムスン重工業（SHI）と、計画している浮体液化・貯蔵・積み出し設備（FLNG）について、基本設計（FEED）契約を発表した。 Cedar LNG は、2023 年の最終投資決定（FID）を見込んでいる。稼働開始日程は 2027 年である。

Sempra は、2022 年 1 月 31 日、メキシコ電力公社 CFE、 Sempra Infrastructure が、シナロア州トポロバンポの Vista Pacífico LNG 液化プロジェクト、バハカリフォルニアスル州 La Paz 気化プロジェクト、ソノラ州 Guaymas-El Oro パイプライン稼働再開のプロジェクト開発に関して非拘束の覚書（MOU）を締結したことを発表した。これらプロジェクト開発により、CFE は余剰天然ガスおよびテキサス州からトポロバンポへのパイプライン容量を最適化することができる。

[中東]

カタール Qatargas は、2022 年 2 月 18 日、 Qatargas が 2 系列、計画外停止となっているかもしれないとの媒体報道憶測を否定した。これらの停止に関して、年間計画の一部として、オペレーション、海上輸送、買主と調整されたものとした。

[アフリカ]

Sound Energy は、2022 年 2 月 16 日、モロッコ陸上 Tendrara 鉱区の中規模 LNG 設備建設第 1 段階開発について、ガス処理設備・液化設備建設契約の推進通知を Italfluid Geoenergy 社に行ったことを発表した。

セネガル沖 KARMOL の浮体貯蔵・気化設備 （FSRU）に最初の LNG カーゴが数週間中に到着する見込み。

ENI は、2022 年 2 月 18 日、コンゴ Congo LNG プロジェクトを、2023 年稼働開始目標、2024 年に年間 200 万トンの平年生産容量に到達する目標で開発している、と述べた。New Fortress Energy Inc. （NFE）は、2022 年 2 月 28 日、 Eni との間で、NFE の Fast LNG 液化技術を、コンゴ沖合に配置する基本合意（HOA）を締結したことを発表した。NFE は同地の随伴ガス田群から年間 140 万トンの LNG を生産するため、 "Fast LNG" 設備を配置する。この HoA により、 NFE ・ Eni 間で同設備全容量に関して長期加工契約、 NFE による、20 年間の FOB 売買契約に基づき、LNG 日量 120 万ガロンの購入を交渉する枠組みとする。生産は 2023 年第 2 四半期開始予定である。

TotalEnergies は、モザンビーク北部での LNG プロジェクト建設を 2022 年再開するこ

とを目指す、と述べた。

[欧州・ロシア]

経済産業省は、2022 年 2 月 9 日、日本への安定供給が確保されることを大前提に、欧州連合（EU）の天然ガス供給確保について日本として可能な限り協力する方針を表明した。

英国の首相は、議会で、「エネルギー企業がさらにガス開発を進めることを促すべきまさにその時に、政府はその企業に打撃を与えるべきではない」と述べた。エネルギー相は、英国は「北海をエネルギートランジッションの一部として」必要としている点を明言し、「エネルギーの移行」における重要な役割を無視するのは「誤り」と強調した。

KBR は、2022 年 2 月 28 日、 Shell Global Solutions International B.V. 向けに水素液化開発支援の契約を受注したことを発表した。KBR は大規模水素液化に向け技術開発のコンセプトスタディーの一環として、技術ソリューションを提供することとなる。

Shell は、2022 年 2 月 15 日、オランダでバイオ LNG が、通常の LNG のブレンドとして顧客が利用できるものとなった、と発表した。 Shell はオランダで初めて自社顧客全てにバイオ LNG をオファーできることとなった。今後数年間でオランダの自社全ネットワークに純バイオ LNG をオファーする計画である。 Shell は 2021 年秋 Nordsol、 Renewi と組んで開業したアムステルダムの設備からバイオ LNG を供給している。 Shell は欧州に 46 件の LNG ステーションを持ち、2022 年末までに 80 件に拡張する計画を持つ。

Fluxys は、2022 年 2 月 1 日、フランス Dunkerque LNG 基地に関して、2023 - 2036 年の間に、3 年間以上、年間 35 億 m³ までの容量予約に関して、市場の関心を募集する手続きを行うことを発表した。

ノルウェー Equinor は、2022 年 1 月 31 日、パンデミック影響と操業の制限のために、自国 Hammerfest LNG 設備の稼働再開は 2022 年 3 月 31 日により 5 月 17 日に延期される、と述べた。

ギリシャ Gastrade は、2022 年 1 月 31 日、 Alexandroupolis の独立天然ガスシステム（INGS）の建設に関して最終投資決定（FID）を前日に行ったことを発表した。当該浮体貯蔵・気化設備（FSRU）は、全長 28 km のパイプラインでギリシャ国家天然ガス輸送網に接続され、LNG 気化ガスは、ギリシャ、ブルガリア、さらにルーマニア、セルビア、マケドニア北部から、モルドバ、ウクライナまでの広範囲の諸市場に怒られることが可能となる。同基地は 2023 年末までの稼働開始が見込まれ、設計気化容量年間 55 億 m³ 中、50%は既に契約されている。

ロシアは世界にガス、LNG 供給を続けたい、と同国大統領は GECF 会合で述べた。前大統領は、ドイツへの Nord Stream 2 パイプライン承認手続き差し止めは、欧州における 1,000 m³ 当たり €2,000 ユーロ (100 万 Btu 当たり USD 50 米ドル) へのガス価格高騰を意味する、とツィートした。

ロシア Gazprom は、速報値によれば、2022 年 1 月 474 億 m³ を生産した。前年同月比

5 億 m^3 （1%）増加となった。FSU 以外への輸出は 114 億 m^3、41.3% （80 億 m^3）減となった。

商船三井（MOL）は、1 月 26 日、ロシア NOVATEK を筆頭株主とするプロジェクト会社と、ロシア・ギダン半島における Arctic LNG 2 プロジェクト向け輸送に参画することを合意し、新造砕氷プロダクトタンカー1 隻の定期傭船契約を締結したことを 2022 年 2 月 9 日に発表した。本船は中国で建造され、2024 年に竣工する予定。本プロジェクト向けに 2020 年 10 月に砕氷 LNG 船 3 隻の定期傭船契約を締結しており、本船はそれに続く契約となる。

ロシア NOVATEK は、2022 年 2 月 17 日、 Arc7 砕氷級のモジュール輸送船舶 AUDAX が、北極海廻り航路（NSR）にて、通常の航行適合季節終了から大分長期間経ってから、Arctic LNG 2 プロジェクト向けの 12,000 トン近い処理モジュールを、中国の天津港湾からムルマンスクまで、輸送航海を完了した、と発表した。

ロシア Gazprom は、2022 年 2 月 25 日、中国石油天然气集団公司（CNPC）との間で、合同調整委員会会合が、オンラインで開催されたことを発表した。2022 年 2 月 4 日、東廻り経路で供給する天然ガス長期売買契約を締結した。中国向けのロシア産パイプラインガス供給は、年間 480 億 m^3 に増加する。

Gazprom は、2022 年 2 月 28 日、 Gazoprovod Soyuz Vostok 特別目的会社、 Gazprom Proyektirovaniye が、 Soyuz Vostok ガスパイプライン建設プロジェクトの一環として、設計・調査作業の契約を締結した、と発表した。本件は、ロシア Power of Siberia 2 ガスパイプラインの延長となる。

Shell は、2022 年 2 月 28 日、 Gazprom および関連諸機関との合弁事業から撤退する意思を発表した。 Sakhalin-2 LNG 設備 27.5%持分が含まれる。 Shell は、 Nord Stream 2 パイプラインプロジェクトへの関与も終了する意図である。 ExxonMobil は、2022 年 3 月 1 日、 Sakhalin-1 操業を停止し、新規投資はロシアでしない、と発表した。

[グローバル]

2022 年 2 月 3 日 journal Science に発表された研究 Chasing after methane's ultra-emitters では、2019 - 2020 年に衛星により検知された 1 時間当たり 25 メトリクトン以上のメタン排出事象をウルトラエミッターとして 1,200 件以上が観測されたとしている。そのような通常検知されていない高排出事象が、石油・ガス産業の排出総量の 12%程度に相当し、国別の温室効果ガスインベントリーには含まれていない。米国を含む 6 大石油・ガス生産国に焦点を置き、これらがウルトラエミッターの大多数を占めることを確認した。トルクメニスタンを筆頭に、ロシア、米国、イラン、カザフスタン、アルジェリアだった。

IEA は、2022 年 2 月 23 日、 Global Methane Tracker 最新版を公表した。それによると、エネルギー部門の世界大でのメタン排出は、諸国政府が公式に報告するよりも 70%大きい。エネルギー部門は、人間活動のメタン排出の 40%を占める。エネルギー部門のメタン排出は 2021 年 5%弱増加した。2019 年水準に戻ることはなく、全体としてのエネルギー

消費増加を下回った。排出量削減の取り組みが一部、功を奏しているかもしれないことを示している。2021 年は、テキサス州、中央アジアの複数部分で大きな排出が確認された。今回の発表はまた、エネルギー部門からの最大メタン排出 5 国、中国、ロシア、米国、イラン、インドの内、グローバルメタンプレッジに参加しているのは米国だけである、と述べた。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp